

平成27年2月

泉大樹 学位論文審査要旨

主査 梅北善久
副主査 中村廣繁
同 清水英治

主論文

Favorable effect of the combination of vinorelbine and dihydropyrimidine dehydrogenase-inhibitory fluoropyrimidine in *EGFR*-mutated lung adenocarcinoma: Retrospective and *in vitro* studies

(*EGFR*遺伝子変異陽性肺腺癌に対するビノレルビンとジヒドロピリミジンデヒドロゲナーゼ抑制性フルオロピリミジン併用の良好な効果：レトロスペクティブおよび*in vitro*での検討)

(著者：泉大樹、唐下泰一、井岸正、牧野晴彦、西井（伊藤）静香、高田美也子、中崎博文、上田康仁、松本慎吾、小谷昌広、倉井淳、武田賢一、阪本智宏、矢内正晶、田中那津美、Chaitanya S. Nirodi、清水英治)

平成27年 International Journal of Oncology 掲載予定

参考論文

1. Synergistic cell growth inhibition by the combination of amrubicin and Akt-suppressing agents in *K-ras* mutation-harboring lung adenocarcinoma cells: Implication of EGFR tyrosine kinase inhibitors

(*K-ras*変異陽性肺腺癌細胞株に対するアムルビシンとAkt活性阻害薬の相乗効果：EGFRチロシンキナーゼ阻害薬の意義)

(著者：伊藤静香、井岸正、高田美也子、上田康仁、松本慎吾、小谷昌広、武田賢一、泉大樹、阪本智宏、山口耕介、牧野晴彦、唐下泰一、千酌浩樹、清水英治)

平成26年 International Journal of Oncology 44巻 685頁～692頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は*EGFR*遺伝子変異陽性肺腺癌におけるVNR+DIF併用療法の有効性をプラチナ製剤併用化学療法とレトロスペクティブに比較し、VNR+DIF併用療法が良好な効果を示すメカニズムについて検討したものである。その結果、VNR+DIFによる無増悪生存期間はプラチナ製剤併用化学療法に比べ、有意に長かった。またVNRは*in vitro*において*EGFR*の脱リン酸化作用を有し、これはVNRの細胞増殖抑制効果および5-FUとの併用における相乗効果のメカニズムの一つである可能性がある。本研究の内容は、*EGFR*遺伝子変異陽性肺腺癌に対するVNR+DIF併用療法の有用性を示唆するものであり、明らかに臨床腫瘍学の学術水準を高めたものと認める。